

令和5年度 第9回梅坪台地域会議 会議録

■ 日時 令和5年12月12日(火) 午後7時～午後8時15分

■ 場所 梅坪台交流館 2階 多目的ホール

■ 出席者

<委員> 大谷 忠司 白井 満 杉浦 隆
鈴木 重久 長江 秀昭 松川 幸江
三岡 英隆 森田 實 諸岡 裕一
山村 史子 山本 孝宏 依田 武人

<市長> 太田 稔彦

<関係職員> 辻 邦恵(企画政策部 部長) 野依 真人(企画課 課長)

西岡 雄志(都市計画課 担当長)

<事務局> 後藤 哲也(地域振興部 部長) 岡本 裕之(地域支援課 課長)

松下 誠(地域支援課 副課長)

塚田 征弘(地域支援課 担当長)

谷口 明日菜(地域支援課 主事)

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 諮問・答申
 - (1) 答申書の授受
 - (2) 答申内容に関する説明
 - (3) 意見交換
- 5 連絡事項

■ 議事内容(要約)

4 諮問・答申

(2) 答申内容に関する説明

諸岡副会長から答申書の内容について説明を行った。

(3) 意見交換

別紙のとおり

■ 今後の予定

第10回梅坪台地域会議

1月9日(火) 午後7時～梅坪台交流館 大会議室にて

<意見交換> 【委】：地域会議委員 【市】：市長

【委】 答申を作成するにあたり、色々と自分自身で豊田市の強みや弱みを考えてみたところ、強みについては「面積が大きく人口も多いこと、自然・都市のバランスが良いこと、全方位的な施策に取り組んでいること」などが挙げられると思う。

一方で弱みとしては、「隣の岡崎市などに比べると歴史があまりない、ふるさと納税が弱い、公共交通機関が弱い、大学などの教育機関が少ない」などが挙げられると思う。

また、現在自動運転バスの実証実験を実施しているとのことだが、将来的に中山間地域など交通の不便なところに走らせ、中心地は自転車や電動キックボードをメインにするなどしてもよいのではないかと思う。

【市】 「豊田市」という名称になったのが 1959 年であるため、「豊田市」としての歴史は浅いように見えるが、その前の「拳母市」の「拳母」という地名は古事記にも出てくる地名である。

また、豊田市には徳川家の始祖である松平氏の発祥の地があり、国指定・県指定の史跡の数も岡崎市と遜色ない。このことから、豊田市の歴史が浅いということはないのではないかと考える。しかしながら豊田市には、岡崎市の「徳川家」のような目を引くものがないのは事実である。

大学などの高等教育機関については、中京大学・日本赤十字豊田看護大学・愛知工業大学などがあり、地方都市の中で考えれば他と遜色ないと考える。特に、自宅から通える範囲という観点で見ると、高等教育環境は恵まれていると思う。

公共交通機関については、豊田市には鉄道の駅が 26 か所ある。また、豊田市の中で、自宅からバス停まで 500m以内、鉄道の駅まで 1Km以内に住んでいる市民は全体の 83%を占めている。名古屋や東京のように、電車が次々に来る環境ではないが、地方都市の中で比較するのであれば、それほど不便ではないと思う。

自動運転バスについては、現在レベル 2（運転手はいるが、ハンドルは握っていない。ただし、何か発生すればハンドルを持つ。）の状態である。

見えにくいところから急に人が出てきたり、歩行者が近づいて来たりしたら自動的に速度を弱めるなど、路車協調のための実験も行っている。

【委】 ふるさと納税について、豊田市の状況はどうか？

【市】 ふるさと納税によって損失を受けた自治体について、豊田市は全国ワースト 50 位でマイナス 12 億円程度。

豊田市は、有名なブランドのお肉などがいないため、なかなか厳しい。

【委】 都市部に比べ、中山間地域は疲弊していると思う。そういうところを見捨てることなく、フォローができないだろうか？また、トヨタに代表されるように、産業がさかんな豊田市において、行政と民間企業で協調して取り組んでいくことができないかと思う。豊田市が先進的に取り組み、モデル地域にしていくことができればよいのではないか。

【市】 先日、旭地区の地域会議があり、携帯が繋がらない問題について議論があった。自宅にいれば、大抵ひまわりネットワークの Wi-Fi などにつながるが、一歩外に出るとつながりにくい。このような状況に対して、山中に基地局を作っ

て1台・2台のために通信環境を設けるというのも、なかなか難しい。技術に頼るのではなく、昔ながらの知恵でカバーするのが現実的ではないかと思う。また、今あった意見のように、山間部と都市部がお互いを思いやる市にしたいと考える。

【委】ラリーの反応はどうだったか？

【市】豊田市がラリーの主催者に決まったとき、その意味・役割について改めて考えてみたところ、3つあると思う。

一つ目が、山・森林の価値を捉えなおす機会だということである。山道があるということは人の暮らしがあるということであり、この日本の原風景をラリーを通して山間地の価値として捉えなおすことができると思う。

二つ目が、交通安全啓発としての役割である。ラリーは一見危険に見えるが、極めて素晴らしい運転技術があるからこそ成り立っているものである。このことから、子どもたちがラリーを通してメリハリを持った交通安全教室を受けることができると思う。

三つ目が、産業振興としての役割である。ラリーの中でも、上級のカテゴリーでは合成燃料を用いたハイブリッド車を利用している。モータースポーツを通してカーボンニュートラルにトライしており、これが色々な開発につながり、産業振興そのものに寄与すると思う。

今回のラリーは世界150か国8.7億人が視聴しており、それだけの人が豊田の山や豊田スタジアムを見ているということになる。また、SNSでは10数億回取り上げられており、それらを合わせると相当なインパクトだったことが分かる。

今後しっかりと客観的に検証した上で、「世界中に豊田市の情報が届けられている」ということを山間部の方に示したい。また、子どもたちが普段暮らしているところに誇りや自信を持ってほしいと思う。

【委】梅坪台ではかつて不法投棄が多かったが、今では無くなってきた。また、ゴミステーションで2～3か月に1回不法投棄があるものの、誰かがきちんと片づけてくれている。

このように、「モラル」が非常に大切であると考えするため、市政を進めていくにあたり「モラル」を重視する必要があるのではないかと思う。

【市】一人がモラルのない行動をすると、地域全体の雰囲気が悪くなる。

梅坪台の地域では、コロナ前から何か変わったか？

【委】コミュニケーションの取り方でみなさん苦労していると思う。

子ども会の存続が難しく、役員も見つからない。高齢者クラブも人手不足。

【市】自治区の大きなくくりの中で、子ども部会・高齢者部会を設けることは現実的か？

【委】部会を作っても、入ってくれる人が減ってしまうだけだと思う。

- 【市】 高齢者クラブは高齢者が地域でつながりを持てる場所として最後の砦だと思う。役員がいらないからと言って、組織がなくなってしまうのではないと思う。このような課題は、市の組織にも課題があるのではと感じている。地域組織を別々の所属で担当し、縦割りになってしまっていることで、地域が困っているのではないか。
- また、それぞれの地域組織の役割を減らして、兼務できるようにするなどよいのではないかなと思う。チームで取り組むなどして、やれるときにやれることをやっていく体制にすると、引き受け手も気負わずに済むのではないかなと思う。
- 【委】 東京 23 区のように、ある程度の数の自治区を合併して、小さな役所を設けるなどしても良いのかなと思う。
- 【市】 現在、支所に財源や権限を移している。
自治区・区長会、地域会議、支所のトライアングルで地域課題の解決ができると考えている。
- 【委】 中学校の部活動の地域移行という話があるが、子どもたちの学ぶ機会が奪われないように施策を具体的に示してほしい。
- また、現在学校では人探しのために右往左往しているため、しっかりと方向性を示した上で、進めてほしい。
- 【市】 部活動の地域移行は手探りの状態であり、地域に御迷惑をかけていると感じている。考え方もいろいろある中で、まだ整理できていない。
- かつて、「子どもは家庭でしつけ、学校で学び、地域で育つ」ということがよく言われていた。今は「しつけは学校、学びも学校、育つのも学校」という状況になっており、地域が子どもと関わるのが難しくなった。これにより、全ての役割が学校に押し込められ、教員の多忙化につながっている。
- そのような中で、家庭・学校・地域の役割を改めて問い直し、「地域で育つ」ということはどういうことなのか？」という議論をしていくべきである。「子どもが『地域で育つ』という流れをこの機会に取り戻そう」という発想に変われば、今までの議論とは変わっていくのではないかな。
- 【委】 今年の9月に、梅坪台小学校に通う小学4年生と高齢者クラブの交流会が開かれた。1時間程度、昔の遊びを通して交流を図った。参加した高齢者クラブの方からは、「よかった」という意見が多く、12月にも行う予定で、継続していきたいと思う。このような交流会を行うことによって、高齢者の脳の活性化にもつながると思う。
- 【市】 いつも同じメンバーで集まるよりも、いろんな世代が関わる場所に参加することで、いい刺激になると思う。
- 【委】 コロナ禍において、今までしっかりとつながっていた人は良いものの、コミュニケーションが取れなくなってしまった人は多くいる。そのような人を見捨てないために、改めてもう一度点検し、新しい「つながり」を作っていく必要があると思う。
- 【市】 表現的に難しいが、『『今こそ』つながる』というように、「今こそ」を入れることで、従来と同じ言葉を使っても『『つながる』ことは大事なんだ』ということを改めて感じられるニュアンスを含めることができると思う。